

## 偏見と 誤解だらけの この教科

Keyword : 美術教育の意味, 脳力, 自分流

子どもたちは美術教育の意味を理解しているのでしょうか。おおかた否です。以下引用したのは、2010年度末、広島大学大学院教育学研究科在任中、H市内の小学校数校、延べ数百名の子どもたちに「なぜ“ずこう”は学校にあるんだろう」をテーマに展開したスペシャル授業<sup>\*1</sup>後に頂戴した礼状です。引用したのはH小学校の6年生からの手紙です。

私は、このスペシャル授業を受ける前、図工の授業がある度に「なんで、図工なんてやらないといけないの?」といつも考えていました。絵も工作もあんまり得意ではなかったので、正直な気持ちは「図工なんてめんどくさいな。」という気持ちでした。

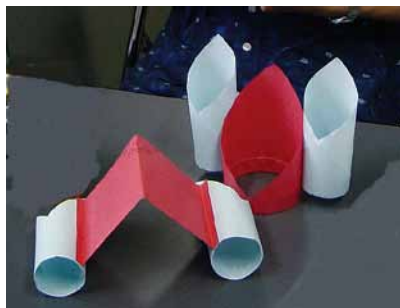
でも、このスペシャル授業を受けてそういう気持ちや考えとは逆になりました。図工は心と脳と手を使って、見て、感じて、考えて、えがいたり、作ったりする。脳力アップの教科だということを知り、私はびっくりしました。脳力をアップさせるのは、国語や算数なのかと思っていたからです。私は図工という教科をもう「めんどくさい」とか、「何でやらないといけないの?」と、思ったりしません。むしろ、「図工ってとても素晴らしい教科なんだ!」と思いつつ、いっしょけん命に取り組むことができますと思います。

今回の授業では、紙で色々な飛行機<sup>\*2</sup>を作ったり、フニャフニャの絵<sup>\*3</sup>を自分の思うように変身させたり、友達の似顔絵をかいた皿をつくり、回したりしました。このようなことをやりながら、先生は「自分流」を大事にしろと言われました。

私はこの授業を通して、図工は素晴らしい教科だということ、そして、「自分流」を大事にすることを学びました。今回の授業は私にとって、とてもよい経験、そして思い出になりました。これからの学習に今回学んだことを活かしていきたいと思いました。(S子)

「なんで、図工なんてやらないといけないの?」と率直な思いの表明です。少なくない子どもたちの同様の反応は、教科の意味を子どもたちに伝え切れていない実態の反映です。

子どもたちの“ずこう”への思いを十把一絡げに論ずるのはやや乱暴かもしれませんが、喫緊の課題はここに明らかではないでしょうか。



自分流学生作品

\*1 東広島市教育委員会がキャリア教育の一環で実施した企画。外部の様々な分野の講師を招聘し各学校に派遣する事業

\*2 プロトタイプの円筒形飛行機を紹介し、オリジナルタイプへの挑戦を求めた活動。掲載の写真は学生作品/参考文献:「図画工作フニャポイント工作教材集」東山明・初田隆編著

\*3 子どもたちに「フニャフニャ」と、命名した不定形を示しその形から新しい形(変身)の発想を求めた活動。本書「の」の項に学生作品掲載